夢のつばさプロジェクト

2017 年夏キャンプ　学生報告書

【日程】2017 年 8 月 3 日（水）～6 日（日）
【開催地】㈱ブリヂストン保養所　奥多摩園（青梅市）
【参加者】子ども：26 名（小学生 12 名、中学生 9 名、高校生 4 名、専門学校生 1 名）
学生スタッフ：39 名（途中入れ替わり含む）
OBOG スタッフ：16 名（同上）
社会人スタッフ／協力者：9 名（同上）

◆2017 夏キャンプについて

本プロジェクトも無事 7 年目の夏の活動を実施することができました。個人や企業等多くの皆様の温かいご支援をいただいて、今夏、13 回目となる 3 泊 4 日のキャンプを開催致しましたことを心より感謝し、ここにご報告いたします。

今回は連日電車移動を伴ったため、子どもたちに疲れがでるのではないかと危惧していましたが、子どもたちも成長し体力がついてきたようで、学生の企画にいつも以上に積極的に参加してくれました。また、今回は、子どもたち自身から夢のつばさプロジェクトへの感謝の気持ちを表現してくれる機会が多くあり、体力面での成長だけでなく、精神的に成熟している様子もうかがえて大変うれしく思いました。ボランティア学生の私たちとしては、子どもたちの成長を実感するとともに、この活動の意義を再確認し、今後もこの活動に関わり続けようという決意を新たにするきっかけになりました。

◆スケジュール・概要

<table>
<tr><th></th><th>前泊
（8 月 2 日）</th><th>1 日目
（8 月 3 日）</th><th>2 日目
（8 月 4 日）</th><th>3 日目
（8 月 5 日）</th><th>4 日目
（8 月 6 日）</th></tr>
<tr><td>午前</td><td></td><td>送迎</td><td rowspan="2">夢のつばさ大学</td><td>料理対決
（作戦会議）</td><td>閉会式</td></tr>
<tr><td>午後</td><td>ブリヂストン社訪問</td><td>開会式
アイスブレイク
ゆめ活</td><td>料理対決</td><td>送迎</td></tr>
<tr><td rowspan="2">夜</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>音楽会</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>土曜こそ
夜ふかし</td></tr>
</table>

キャンプ前日

◆ブリヂストン本社訪問

夢のつばさプロジェクトは、多くの方々のご支援をいただいて活動を続けていますが、（株）ブリヂストン社も様々な社会支援活動の一環として、夢のつばさプロジェクトへも大きなご支援を下さっています。今回、2014 年の夏以来、3 年ぶりにブリヂストン本社を表敬訪問しました。子どもたちを代表して高校生以上の子ども 4 名と、室伏学長、学生・OBOG、事務局滝澤先生の計 11 名が参加し、これまでのご支援の御礼を申し上げました。

ブリヂストンの津谷 CEO、西海 COO 以下ブリヂストン取締役会の皆様たち 10 名が出迎えてくださいました。子どもたちがお礼の言葉を述べ、感謝状をお渡したところ、津谷 CEO は「むしろこの活動を支援し参加できることにとても感謝している。これからもぜひこの活動を支援していきたい」とお話し下さり、日本のトップ企業の懐の深さに一同感激しました。子どもたちが将来の希望やこの活動で得た友人や経験の喜びを申し上げたり、他の役員の方たちからも子どもたちを応援するお話を頂いたり、晴れやかなひと時を過ごしました。キャンプ直前にこの活動の重みを一層実感することができ、この活動に携わっていることをとても誇りに思いました。

◆奥多摩園にて宿泊

ブリヂストン社訪問に参加した高校生らは、一足先に OB や学生有志と、ブリヂストンの保養所「奥多摩園」に前泊し、この時間を利用して、「キャンプにこんなものがあればいいな」と思うものを提案してもらい、全員で作成しました。

今回は、部屋のメンバーがひと目でわかる表札や、おふろに入る順番が書かれたおふろ順番カード、さらには毎朝の検温で使用する検温カードなどを作成してくれました。小中学生だった子どもたちが成長し、運営する学生のことを考えて、必要なものを自分たちで作ることができるようになり、微笑ましく思いました。

（左から時計回り）部屋の表札、おふろの順番カード、検温カード。

１日目

初日は新幹線の遅れもなく、無事奥多摩園に到着できました。中学生になりすっかりお姉さんになった子や、相変わらず愛くるしい顔つきの小学生男子。久しぶりの子も、毎回参加してくれる子も、奥多摩園の入り口で出迎えている学生に会えた瞬間、表情がみるみる明るくなるのが見て取れました。

◆開会式

開会式では、キャンプテーマとキャンプ中のルールを発表し、最後には初参加の子どもに自己紹介をしてもらいました。

◆アイスブレイク

今回は、本当か嘘かわからない 6 人の発言から 2 つ嘘を見極めるというアイスブレイクを行いまし

た。お馴染みの顔ぶれでも知らない一面を知ることができ、アイスブレイク後に続く企画に向けて緊張を解きほぐしてくれました。初めて参加してくれた子についてもさっそく知ることができ、本人もキャンプの雰囲気に馴染んでくれているようでした。

◆ゆめ活

“ゆめ”のつばさで“活”躍できる“活”動、略して「ゆめ活」。

この企画は、年齢が上がるに連れて、学生が提供するばかりの企画だけでは物足りなく感じてきていた中高生の現状を踏まえて、学生の仕事を子どもたちにもやってもらおうという企画でした。

今回は４日間を通して達成できる役割を６つ用意し、子どもたちにはその中からやってみたい仕事を一人ひとり選んでもらいました。学生たちは事前に話し合い、それぞれの子どもの仕事に、必ずレスポンスができるよう、心がけて臨みましたが、学生も顔負けの子どもたちの活躍ぶりに、皆レスポンスしなければと意識することなどなく、「〇〇のおかげで朝の仕事がこんなにも早く終わった！」「△△が撮ってくれた写真本当に素敵だね！」などと感謝の気持ちを伝えることができました。

ゆめ活の６つの役割について学生が説明している様子。

２日目

◆夢のつばさ大学

２日目は、夢のつばさ OB の一人の職場である明星大学を見学させていただきました。

まず着いてすぐに、在学生によるキャンパスツアーがあり、大学構内を案内してもらいました。大学に行ったことがない子が多く、子どもたちは施設の規模感に驚きを隠せず、目を皿のようにして見て回っていました。お昼は大学生気分で、食堂で学食を食べたのも良い思い出です。

午後は、小学生と中高生に分かれて行動しました。小学生は、明星大学の教授がご用意くださった、「バナナやオレンジジュースから DNA を取り出してみよう」という理科実験に参加しました。バナナもオレンジジュースも白くないのに、なぜか白いゼリー状の DNA が抽出され、みんな興味津々でした。一方で中高生は、夢のつばさの学生や OBOG による“授業”を受講しました。大学で何を学び、どうして今の学部・学科や職業を志望するようになったのかを、大学の講義らしくまとめ、熱く語りました。現在進路に迷っている子どもも、すでに自分のなりたい姿を描き出せている子どもも、学生や社会人の話を一生懸命聞いていました。

小学生の理科実験にて、バナナから DNA を採取。

学生や OBOG が中高生に、自分の進路や職業選択について語る。

ダブルダッチサークルに所属する大学生から飛び方を教わり、実践する様子。

最後はサークル活動の体験もできました。ダブルダッチサークルの大学生と一緒に、みんな汗だくになりながら楽しそうに、２本の縄の縄跳びを飛んでいました。帰りは大学生の放課後をイメージして、立川でお土産を購入し、まさに大学生らしい１日を過ごすことができました。

今回この企画を通して、身近な学生や社会人からロールモデルを示すことができ、以前から掲げていた「子どもたちの“夢の応援”をしたい」という目標に向けて、「夢のつばさの学生からの企画」としての第一歩を踏み出せたのではないかと思います。

３日目

◆料理対決

この企画は、春秋の交流会の保護者会で保護者の方々から伺ったことがきっかけとなりました。お家で暇があると間食してしまう、一人で料理ができなくて保護者が帰宅するまで、夜ご飯が食べられないという、子どもたちの家庭での様子を聞き、この企画が生まれました。そのため、子どもたちの料理に対する興味を広げ、キャンプで作った料理を少しでも家で作ってほしいと、料理の再現性をもっとも重視しました。

午前中は、チーム分けを発表し、料理を選びました。「家でも簡単に作れる料理」をキーワードに、学生が事前に調べてきたレシピから各チーム一品ずつ選びました。

午後は、いよいよ料理対決本番です。チームは大きく２チームに分かれ、剣道の団体戦と同じように５回戦まで行いました。出来上がった料理は、味や見栄えなどを基準に、社会人スタッフや OBOG に審査してもらいました。両チームとも本気で勝負にかかり、

料理をする前に一致団結するため、学生と子どもで手を重ねて円陣を組みました。

料理をしていました。結果は僅差でＡチームの勝利！！

今後お家でも料理を作ってくれることを期待し、最後に夢のつばさオリジナルのレシピ本を子どもたちみんなにプレゼントしました。

中学生は、「友達が家に来たが買い物に行く時間がないため、冷蔵庫の中にあるものでパスタを振る舞おう」というお題で、Ａ チームはカルボナーラ、Ｂチームはナポリタンを作りました。

◆音楽会

社会人スタッフのお一人の白井優次様はご自身も音楽家で、音楽事務所の代表をなさっておられ、毎回、プロの演奏家をご紹介くださって、素敵なコンサートを開いてくださいます。今回はピアニストの浅野衣美様、そして藤原新治様がピアノの連弾をしてくださいました。「情熱大陸」や「ルパン三世」など馴染みのあるかっこいい曲から、昨年大ヒットした星野源の「恋」というＪポップやバラード調の「美女と野獣」まで聴くことができ、感動が止まりませんでした。また、アップライトピアノの上前板を開けて弾いてくださったため、鍵盤の動きが見え、ピアノの知識がない人でも思わず見入ってしまいました。

左から、白井様、藤原様、浅野様。クラシックからＪポップまで幅広く選曲され、素晴らしい連弾ピアノ演奏会でした。

そして今回も、フルートを持参してくれた子どもと音楽家お二人で「エーデルワイス」を披露してくれました。ますますフルートの演奏が上手になっていて、音色に癒やされました。

◆土曜こそ夜ふかし

音楽会終了後、少々時間に余裕がない中ではありましたが、中高生向けに某番組名をもじった企画を行いました。その名も「土曜こそ夜ふかし」。土曜日の夜遅くまで語り合おうということでこの名前になりました。企画内容としては、自由参加で中高生を集め、自分の将来や夢について学生たちと語り合うという内容でした。

大学企画で、学生や社会人が自分たちの将来や夢についてオープンに話すことによって、子どもたちもそれに呼応するかのように自分たちの将来や夢について話してくれました。将来に対する漠然とした不安を抱える中高生たちにとって、身近な学生もみんなと同じように悩みながら進学選択・職業選択をしたと聞けたのは、きっと有意義だったはずです。実際に今回の企画の中で、学生からも子どもたちからも大好評でした。

４日目

◇閉会式

閉会式では、４日間のキャンプの思い出がぎっしりと詰まった恒例のスライドショーを流しました。その後、ゆめ活の振り返りをするとともに、学生から子どもへのメッセージカードを渡しました。

ここでもゆめ活として活躍してくれる子どもたちがたくさんいました。子どもたちには、スライドショー用の写真撮影から写真の選定、選曲から編集まで手がけてくれ、おかげでより一層思い出深いスライドショーとなりました。

20 歳祝いに表彰状を受け取る子ども。

また、いつもお世話になっている社会人スタッフの方々、そして奥多摩園のスタッフの方々に、子どもたちからお礼の挨拶をしてもらいました。みんなの前に立ち緊張している様子でしたが、時間をかけて一生懸命作った台本を握りしめながら、温かいお礼の挨拶をしてくれました。

そして閉会式のフィナーレは、20 歳を迎えることができた子ども第１号の成人祝いで締めくくりました。今まで何回もキャンプに参加してくれたことへの感謝を表彰状として送り、親しくしていた学生や OBOG からのメッセージビデオがまとめられたスライドショーを流しました。サプライズにびっくりしていた本人は、照れながらも最後は立派に御礼やこれからの決意をスピーチしていました。

◆夏キャンプを終えて

今年で７年目を迎えることができた夢のつばさプロジェクト。

参加する子どもたちは、「子ども」と表現するには相応しくないほど、どんどん大人になってきています。中高生ともなると、「こんなことやあんなことをやってみたい」「どうして～～はできないの？」などと与えられたものに疑問を抱き、学生と対等に意見や要望を言うようになって、対応に窮するときも出てきています。またその一方で、現役引退後も積極的に参加を続ける OBOG が年々増え、経験やノウハウが蓄積されていき、気づけば学生の組織もだいぶ成長しています。

この２つの変化に伴い、今年の４月から現役学生と OBOG が、新たにお互いを活かし合える協力体制を整えようとしてきました。それによって今回は、子どもたちとの関係性を築き上げてきた OBOG の強みを活かし、やや物足りなさを口にしていた中高生に対し、相応しいプログラムを提供できたのではないかと感じています。また、今まで現役だけでは手の回らなかったところまで配慮できるようになり、さらなる発展に向け、初めての取り組みにもいくつかチャレンジすることができました。

新体制に切り替わるのも、決して容易ではありません。私自身、学生代表としてもがき、幾度となく悩み、心が折れそうになりました。でも今回の夏キャンプを振り返って、子どもたちだけでなく、学生も、「今回のキャンプが今までで一番楽しいキャンプだった」と笑顔で言ってくれたことで、今までの努力が報われました。

子どもたちはいつでも私たちの原動力です。生意気なことも言ってきますが、それでもなお我が子の

ように可愛いのです。課題はまだまだ沢山ありますが、これからもこの子たちの期待を裏切ることなく、キャンプ一つひとつを大切にし、挑戦し続け、よりよい団体になるよう努力してまいります。

最後になりましたが、この活動を日頃からご支援くださっている皆様にお礼を申し上げます。私たちが当たり前のように活動し、「子どもたちのためにああしたい、こうしたい」と毎キャンプで様々な企画を運営できるのは、震災当時から今までこの活動にご支援いただき、様々にご協力いただいている皆様、お一人おひとりのお蔭であります。心より御礼申し上げます。

少しでも皆様のお気持ちに応えて、子どもたちのために良い活動にしていけるよう、学生一同誠意を込めて努力してまいりますので、今後とも変わらぬご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

大学生ボランティア代表　お茶の水女子大学３年　山本瑛子